

本号のテーマ：「挨拶の深化、挨拶運動の進化」

○ はじめに

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 30 年が皆様にとりましてよい年でありますように。

さて、人間社会の諸活動は挨拶に始まり挨拶で締めくくられるのが常であります。また、良好で温かな人間関係を構築していくことにおいて挨拶が果たす役割は非常に重要であります。

ところでこの挨拶は、昔から、主に大人が子どもに指導することで子どもたちが身に付け、それが子どもたちの人格形成にもつながってきました。本号では逆に、子どもの姿からぜひ大人も学びたいものだという事例を 2 つ紹介させていただきます。

1 「野中生の誇りです」

それは昨年 11 月 22 日午後のことでした。公務で野沢会館に出向いた折、玄関付近で 5～6 人の男女中学生に出会いました。

「こんにちは!」、「こんにちは」、・・・。

全員の中学生から快活な挨拶をいただきました。もちろん私もお返ししながら、声をかけました。

「皆さんは野中（野沢中学）ですか。すばらしい挨拶をされますね。」
本心からこう褒めたところ、次のような言葉が返ってきたのです。

「はい、そうです。私たちは野中の看板を背負っていますから。」と一人の女子生徒。また、ある男子生徒はにこにこしながら、

「僕たちは野中生としての誇りをもっていますから。」と、右手のこぶしを自身の左胸にポンとあてながら語ってくれました。

自校に抱く「誇り」が、校外で出会った初対面の人間に対する挨拶にもつながっている、そんな中学生の生き方に深い感動を覚えたひと時でした。

2 委員会活動が全校当番活動に

昨年12月、現在改築工事中の岩村田小学校を会場に総合教育会議を行いました。その会議に先立って、同校の子どもたちと一緒に給食をいただく機会を得て、市長、教育委員他、いくつかの教室に分かれて楽しい食事を摂らせていただきました。

歓談しながらの食事中、お昼の放送が流れてきました。当日の献立の説明から始まった放送ですが、最後に、翌日の当番活動についての連絡がありました。

「明日の挨拶当番について連絡します。明日は○年と□年のそれぞれ△組が当番ですのでもよろしくをお願いします。」

お昼の放送が終わったので、子どもたちに「挨拶当番」について尋ねてみました。何と、全校の子どもたちが当番制で昇降口に立ち、挨拶の声が響く学校にしようという運動を進めているとのことでした。

実は、5年ほど前のこと、同校にお世話になっていた私は、児童会の委員会活動で行っていた「挨拶運動」に加え、あるクラスが「自分たちも当番を決めて挨拶を広めよう」と独自のアイデアで活動を始めたことを知っています。翌年には、その当番活動は当該学年全体に広がりました。

そして今、その活動は全校の取り組みに広がっているのです。すばらしい進化ぶりを知り、うれしい気持ちで一杯になりました。おいしい給食を子どもたちと楽しくいただきながら、お腹も心も満ち足りたひと時でした。



○ おわりに

「ネット登場 人間関係変化」・・・これは、本年元旦のある新聞記事の見出しですが、ネット環境にまつわる人間関係の深刻な悩みがいくつも紹介されていました。電子メディアとの望ましい付き合い方については、本市でも「Saku Kids メディア Safety」の取り組みでメインテーマとしているところです。そんな中、本号で紹介した子どもたちの姿は、人間が人間らしく生きる基本として、大人も子どもも改めて受けとめ直したいものです。

誇りをもった生き方が挨拶を「深化」させていること、また、挨拶運動が「進化」して人間の輪が広がっていること、いずれも頼もしい事実として深く心に刻ませていただきました。感謝。